

みなさん、こんにちは。

8月、甲子園ではセンバツ高校野球が開幕し、ヒロシマ・ナガサキでは被爆後61回目の夏を迎えます。暑さもいよいよ本番です。

1. 博物館実習生14名、学芸員の仕事を体験

8月の第1週は各地の大学4回生が学芸員資格取得のために博物館で実習を行いました。昆虫絵画コンクールの展示準備、化石展での子ども向けクイズの企画と制作、ワークショップの準備と支援、埋蔵文化財の資料整理などなど、毎日博物館の裏側でさまざまな体験をしました。武庫川女子大4回生の倉橋香菜さんは「展示の難しさを知ることができ、またおりがみで子どもたちと触れ合えて充実した時間を体験することが出来ました」という感想。甲南大学4回生の吉本雅彦さんは「学校や地域と連携して、明石をもっともっとアピールしたい」と話してくれました。14人のこれから進む道は様々ですが、多少なりともプラスになった実習になったようです。



昆虫絵画作品の展示



子どもたちとおりがみ



出土遺物の水洗い

8月20(日)のおりがみ教室は定員になりました。受付を終了しています。

2. ワークショップ「拓本づくり」で瓦に触れる

8月5日(土)は、拓本づくり。明石市内から出土した白鳳時代や平安時代の軒丸瓦や軒平瓦に画仙紙を貼り、三階菱や巴文などの文様を墨で写しとりました。小学生から高齢者の方まで参加し、博物館実習生にアドバイスされながら1000年以上前の瓦に触れて、感慨深い様子で墨を打っていました。



まず、水で画仙紙を瓦に貼ります



乾いたら、ポンポンと墨を打つ



うーむ、難しい

3. 化石のレプリカ作り ひとつはキャラバン in 明石

8月6日(日)は化石のレプリカ作りを開催しました。ひとつは(兵庫県立人と自然の博物館)の三枝先生に教えてもらいながら、本物のアンモナイトや三葉虫、ゾウの歯の化石に触れて型どりから石膏レプリカ作りまでを根気強く取り組みました。歯医者さんが歯の型をとる時に使う印象材で化石の型をとりました。参加した人もみなびっくりで、本物そっくりのレプリカに満足、満足。夏休みのお土産がまたひとつ増えました。



三枝先生のお手本をよく見て



出来上がった型に石膏を入れます



待つこと40分、できた！！